



子どもが主語だったハヶ岳野外体験教室

本日から2月となりました。2月は昔から「如月（きさらぎ）」と言われます。その由来は諸説ありますが、まだまだ寒さが厳しい時期のために、更に衣を重ね着するという意味から「衣更着（きさらぎ）」になったという説が最も有力とされています。また、「如月」には寒い冬が終わり、春に向かって万物が動き始める時期という意味もあるそうです。校長室にある洋蘭の花も咲き始め、寒さの中にも春の訪れを感じる季節となりました。

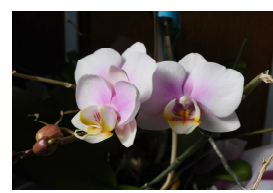
さて、1年生は1/15から2泊3日でハヶ岳野外体験教室に行きました。コロナ禍のため、心配な部分もありましたが、おかげ様で保護者の方に迎えに来ていただくような大きなけがや病気もなく、無事終えることができました。私は初日しか帯同することができませんでしたが、実に子どもたちが生き生きと活躍する姿がそこにはありました。正に子どもたちが主語だったハヶ岳野外体験教室だったと思います。事前指導の集会や入所式等でも実行委員が司会を務め、各系の生徒が発言する場面が多く、子どもたちが一生懸命考えた自分の言葉で言うべきことを伝えていました。そんな経験が子どもたちを成長させているのではないかと微笑ましく見させていただきました。

また、宿泊行事こそ、普段の学校生活の姿がよく表れると思えました。体験教室の多くの方々から「人の話がしっかり聞ける生徒たちですね。」という言葉いただきました。出発前の集会で私は子どもたちに「この行事を通して学年やクラスの絆を深めて欲しい」と話しましたが、この三日間で子どもたちはかけがえない“絆”という財産を手に入れたのではないのでしょうか。子どもたちが書いた「体験学習を終えて」の中で次のような文章がありましたので、紹介します。

- ・周りに仲間がいると、友達も頑張っているからとか、やりたくてもできない人がいるからとか考えると、自分を奮い立たせることができ、仲間の存在が自分にとって大きな活力になることを感じました。
- ・ハヶ岳では周りの人に迷惑をかけたくなかったのでも、先のことを考えたり、周りを見ながら行動することを意識していました。帰ってきてからもそのことを意識してやると、今までできていなかったことができるようになりました。

「進路への取り組みは子どもを大人にする」

「校長先生、合格しました！」私立高校の推薦試験を受けた生徒がわざわざ校長室まで報告にきてくれました。感謝の気持ちを忘れず、お礼に来てくれる誠実な姿勢には心打たれます。これから私立高校の一般受験、公立高校の共通選抜と受験はまだまだ続きます。現在、3年生はそれぞれの目標に向かって全力で取り組んでいます。勉強はもちろんですが、面接も重要です。学校でも3年生の先生方はもちろん、私も含めて他学年の先生方にも協力いただいて毎日のように面接練習をしています。その中で将来について「私は入院したときに看護師さんにとても優しくしてもらったので、自分もそんな看護師になりたい」あるいは「私は親のように薬剤師になって多くの人の役に立ちたい。」と力強く答える生徒もあり、実に頼もしく感じました。入試でより良い受け答えができるように面接練習に取り組んでいます。が、「高校で何をしたいのか？」「自分自身の良いところは？」など、予想される質問の回答を考えるプロセスこそが自分と向き合う良い機会になっていると感じます。正に『進路への取り組みは子どもを大人にする』のではないのでしょうか。3年生の皆



さん、あともうひと踏ん張りです。頑張り！

貴重なご意見、ありがとうございました ～学校評価～

12月には大変ご多用の中「学校評価」にご協力いただき、ありがとうございました。結果については後日改めてお知らせいたしますが、学習指導や部活動、進路指導等については厳しいご意見もいただきました。保護者のお立場からご意見をいただくことは、本校の発展にとって欠かせないものだと考えております。ご指摘いただいた点は真摯に受け止め、今後、改善を図ってまいります。また、学校や教師の思いが十分にご理解いただけていないと感じる部分については学校日より学年・学級通信等、様々な機会を通じて丁寧な説明が必要だと感じています。

そうした中で次のような有り難いお言葉もいただきました。

- ・入学当初から先生方の雰囲気がとても良いことに驚いており、その影響から子どもたちも心に余裕のある子が多いと実感しております。なので、安心して子どもを学校に通わせることができおり、親としてこんなに有り難く感じる公教育はありません。
- ・3年間変わらず学校が大好きと思いながら、過ごさせていただけたこと、心より感謝いたします。関わって下さる先生方のもとても人間味あられる授業。みんな違ってみんないいを肌で感じながら娘も成長できたはずです。

とても励みになります。ありがとうございました。今後も保護者の皆様と共により良い学校づくりに努めてまいります。

「子どもと大人でつくりだす豊かな学びとは」～かながわ学力向上シンポジウム～

1/22(日)主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善や多様な人々との協働など、子どもと大人でつくりだす豊かな学びについて、学校の教員・指導主事、保護者、学識経験者、児童・生徒、総勢140名程度の人々が参加して「かながわの学びづくり」や学力の向上について考えるシンポジウムがオンラインで開催されました。その中でコメンテーターとして参加していた横浜国立大学の池田敏和教授から「豊かな学び」について、次のような貴重なご示唆をいただきました。

- ・子どもが疑問を持ったとき、すぐに答えを教えるのではなく「どうしてそう思ったの？」とその疑問に寄り添って一緒に考えてあげることが大切。
 - そうした姿勢が子どもに新たな一歩を踏み出す機会を与えることにつながる。
 - 一歩を踏み出すことで新たな人との出会い、次のステップにつながる。
 - 自分を応援してくれる人、自分の悩みを相談できる人がいることに気づく。(安心感)
 - 次のステップにつながるアイデアがもらえる。自分が没頭できる新たな内容に出会う。
- ・素朴な疑問を発信し、子どもと大人で試行錯誤し、誰も知らない新しい体験をつくりだす。
- ・家庭における説明学習＝子どもが学校で学んだことを家庭で保護者に説明させる機会を持つことで内容の理解を深める。(「今日学校で学んだことは?」)

その後のグループディスカッションでも次のような意見がでました。

- ・『豊かな学び』のためには、「子どもの知的好奇心をどう受け止めるか。」かが重要である。
- ・「学びづくり」は「つながりづくり」多くの人々と関わることで価値観の多様化を体感できたり、周囲の人々の存在を認識し、感謝の気持ちも生まれてくる。

私は若い頃、教師という仕事は子どもたちに何かを教えることだと思っていました。しかし、最近子どもたちが自ら考えたり、気づいたりして成長させる機会(場面)を創出することが教師の仕事ではないかと思っています。つまり、さまざまな経験を意図的に積ませることで、生徒に自尊感情(自己肯定感・自己有用感)を抱かせることこそが教師の最も重要な役割だと考えています。

同様に保護者の皆様も子育てを親の責任としてすべて背負い込むのではなく、わが子が多くの人と関わりを持つためのきっかけをつくるのが親の役割と考え、さまざまな人に育ててもらおうという気持ちで接してはいかがでしょうか。私自身も本校が子どもたちにとって意見や考えをきちんと受け止められる場になっているかを意識しながら今後の学校運営に取り組んでいきたいと思っております。

★生徒会レク新企画★「体育祭フロック対抗ドッジボール大会」

1/27,30 昼休みに実施。学年を超えた取り組みで大いに盛り上がっていました。

